

原子力 ワンポイント



広く利用されている放射線 26

線、医療被曝なども調査対象になりました。同委員会の報告書は純粋に科学的所見からまとめられています。それ故、図一に示すように放射線防護規制作成上の重

要な基礎資料となつて

福島被ばく線量低い と国連科学委報告

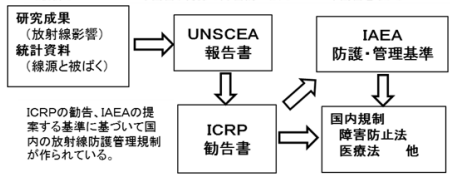
「一般公衆への被ばく線量は、最初の一年目の

得る増加は予期できない、また四十項では、「福島県の成人について、国連科学委員会は、

「特にI-133など、短半減期のヨウ素の放射性核種の摂取による寄与

出典・佐々木康人..日本学術会議「学術の動向」二〇一一年・二より改編

放射線防護規制作成の国際的枠組み
(最新はICRP2007年勧告、現行の障害防止法は1990年勧告を取入)



一である」と推定する。リスクモデルによる推定はがんリスクの増加を示唆するが、放射線誘発性のがんは、現時点では、他のがんと区別がつかない。ゆえに、この集団における、福島事故による放射線被ばくの影響は、がん発症率の増加と推定される。このように、昨年十月に発表された中間報告書では、未だ、予測に基づく評価段階との印象がぬぐえませんが、この報告書はその後、修正が加えられ、四月初めに公表されるものと聞いています。

「福島県の成人について、国連科学委員会は、生涯の平均の実効線量は10mSv以下であり、最初の一年目の被ばく線量はその半分か三分の

「福島県の成人について、国連科学委員会は、生涯の平均の実効線量は10mSv以下であり、最初の一年目の被ばく線量はその半分か三分の

「福島県の成人について、国連科学委員会は、生涯の平均の実効線量は10mSv以下であり、最初の一年目の被ばく線量はその半分か三分の

「福島県の成人について、国連科学委員会は、生涯の平均の実効線量は10mSv以下であり、最初の一年目の被ばく線量はその半分か三分の

原子放射線の影響に関する国連科学委員会

は昨年十月の第六十八回国連総会で、東京電力福島第一原子力発電所事故影響の中間報告を行いました。最終報告書は四月公表とされています。

「原子放射線の影響に関する国連科学委員会」ってどのような委員会なのでしょう。

タクさん この委員会は、大気圏核実験による放射線被ばくへの懸念が増大したことを受けて、一九九五年の第十回国連総会決議に基づ

き、原子放射線が人体と環境に及ぼす影響を明らかにすることを目的として設置されました。

最初、核実験による放射性降下物(フォールアウト)の影響評価が主

でしたが、時代とともに核燃料サイクル、自然放射

線、医療被曝なども調査対象になりました。同委員会の報告書は純粋に科学的所見からまとめられています。それ故、図一に示すように放射線防護規制作成上の重

要な基礎資料となつて

「一般公衆への被ばく線量は、最初の一年目の

得る増加は予期できない、また四十項では、「福島県の成人について、国連科学委員会は、

「福島県の成人について、国連科学委員会は、生涯の平均の実効線量は10mSv以下であり、最初の一年目の被ばく線量はその半分か三分の

「福島県の成人について、国連科学委員会は、生涯の平均の実効線量は10mSv以下であり、最初の一年目の被ばく線量はその半分か三分の